

事業実績書

| | | |
|------|------------------|---|
| 事業名 | | 沼津商業高校ビジネスプラン発表会実行委員会 |
| 場所 | | ぬましん COMPASS |
| 期間 | | 2026 年 2 月 19 日 ～ 2026 年 2 月 20 日 |
| | 日程 | 実施項目・作業項目 |
| 事業内容 | 開催前 ～準備 期間 | <p>※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内打合せ（目的共有、役割分担） ・市役所担当部署との調整（会場＝ぬましん COMPASS 利用、日程確認） ・発表資料（スライド・配布資料）の作成 ・市役所職員・企業関係者への案内文発送 ・発表リハーサル（進行確認・質疑応答練習） ・当日スタッフの配置計画（受付、司会、誘導、記録等） |
| | 前日～ 当日 | <ul style="list-style-type: none"> ・会場設営（受付・音響・プロジェクター確認） ・最終リハーサル ・ビジネスプラン発表会（6グループ発表、質疑応答） ・来場者との意見交換 ・後片付け |
| | 当日～ 3月31 日 | 学校・市役所への報告 |
| 事業効果 | | <p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>本事業では、「高校生の社会課題解決能力の向上」および「行政・企業・学校の連携基盤の形成」を成果指標として設定した。まず高校生の能力育成について、本授業を履修した生徒 27 名を対象に、地域課題の調査・分析、事業計画の立案、プレゼンテーションまでを実施した。生徒は 6 グループに分かれ、全グループが具体的なビジネスプランを作成し、発表会において外部に向けて提案を行った。その結果、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」において、全国 5,640 件の応募の中から本校のプランがファイナリストに選出され、社会課題を分析し解決策を構想・発信する力の向上が具体的な成果として確認できた。次に地域との協働について、発表会には市役所職員、企業関係者、地域住民等あわせて約 20 名が来場し、質疑応答および意見交換を実施した。企業関係者からは商品化・事業化に関する助言が複数寄せられ、行政からも今後の連携可能性に関する意見が提示されるなど、高校生の視点を起点とした交流が生まれた。また、発表会後には企業および関係機関との継続的な相談・協議が 5 件行われ、教育活動を契機とした新たな協働のきっかけが形成された。これにより、行政・企業・学校の三者が連携する基盤づくりが進んだ。さらに、生徒への事後アンケートでは「地域に関わりたい」と回答した生徒が 80%となり、地域参画意識の向上が確認できた。以上のことから、本事業は若者の社会参加意識の向上、人材育成、地域活性化に資する効果を示すことができた。</p> |

| | |
|---------|---|
| 自己評価 | <p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>本事業は、高校生が地域課題を分析し、解決策をビジネスとして構想・発信する機会を創出することを目的として実施した。授業内での調査・分析・企画立案に加え、外部に向けた発表会を実施したことで、生徒は学校内にとどまらない社会的な視点を持って活動に取り組むことができた。実際に外部関係者から意見や助言を受ける経験は、学習意欲の向上や主体的な学びの促進につながり、教育的効果は大きかったと評価できる。また、行政職員や企業関係者が高校生の提案に直接触れる機会を設けたことで、教育活動が地域社会と結びつく場が形成された。発表会を通じて意見交換や相談が生まれ、学校単独では得られない協働のきっかけを創出できた点は、本事業の成果であると考えられる。特に、教育活動を契機として行政・企業・学校の関係構築が進み、若者の地域参画を促す基盤づくりに一定の効果があつたと評価する。一方で、課題も明らかとなった。生徒の提案は発表段階で終わるものも多く、継続的な検証や事業化まで結び付ける体制が十分ではない点が挙げられる。また、地域関係者との連携は発表会を中心とした単発の交流にとどまりやすく、継続的な協働へと発展させる仕組みづくりが必要であると認識している。今後は、発表会後のフォローアップとして関係機関との定期的な意見交換や試行的な実践の機会を設けるとともに、教育課程の中に検証・改善の過程を位置付けることで、提案を継続的な活動へ発展させたい。本事業は、高校生の主体性の育成と地域との連携を同時に実現できる有効な取組であり、改善を図りながら継続することで、将来的な人材育成および地域活性化に寄与するものと考えられる。</p> |
| 今後の活動予定 | <p>※ 補助金を利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>本事業に参加した生徒は3年生であり、卒業後はそれぞれ進学・就職等の進路に進むため、同一メンバーによる活動の継続は難しい状況である。しかし、本取組は単年度の活動として終了させるのではなく、学校の教育活動として継承していくことを基本方針とする。具体的には、課題研究「地域戦略論」の授業において本事業の手法を次年度以降も取り入れ、新たな生徒が地域課題の調査、企画立案、発表までを継続的に実施する予定である。これにより、活動主体は生徒個人から学校としての教育プログラムへと移行し、継続的な人材育成と地域との関係維持を図る。また、今回の発表内容については、企業・行政との連携の中で事業継承の可能性を検討していく。学校外の関係者が主体となる形で実践的な活動へ発展することが望ましく、必要に応じて学校は企画調整や協力という立場で関わっていく予定である。なお、卒業生についても、可能な範囲でイベント協力や助言等の形で関与する意向を示しており、後輩への助言や発表会への参加などを通じて活動を支援する体制を検討している。資金面については、次年度は授業活動として実施するため、活動内容に応じて外部支援制度の活用も検討する。本事業を契機として形成された行政・企業との連携関係を維持しながら、教育活動として持続可能な形へ発展させていきたい。</p> |